

市長が行く

No.7

茂原市長 田中 豊彦

善意の連鎖

世界が今までに経験したことのない未曾有の金融危機に見舞われた2008年が終わり、新しい年が始まりました。

この年が、明るい年になると いう保証は全くなく、先の見えない現状に息苦しささえ感じます。茂原市に拠点を置く企業の多くが輸出型企業であることを考えると、来年度の税収が落ち込むことは必至であり、予算編成に頭がいたい今日この頃であります。ただ、現実はしつかりと受け止めながらも、前向きに、プラス思考で、為すべきことには当たりたいと思つております。

ところで、このような厳しい

状況下でも、大変嬉しいことがありました。昨年コジマヤスポーツの青柳さんが寄付してくれたお金で、中学校にAEDが設置できること色々な場所で話したところ、次から次へと寄付してくださる方が現れたのです。おかげさまで早いうちに全小学校にもAEDを設置することができそうです。ふるさと茂原市のためにという市民の皆さまの熱い心の表れに、本当に心を打たれました。

経済の悪化に伴い犯罪も増えるといわれています。人の心がすさんでいくのです。ただ悪化といつても、まだまだ物質的には昔よりは恵まれている現在、私たちとは、人間としての生き方をあらためて考える時にきていいふのかもしません。足るを知る心、他人を思いやる心。人の心が良い方向に向かつて、共鳴を起こし、広がつていけば、犯罪も少なくなつていくのではないかと思います。住みよい町とは本来そういうところにあるのかもしません。

蝶々の小さな羽ばたきが連鎖して共鳴し、やがてはニューヨークでハリケーンが起こるという力オスの理論と呼ばれているものですが、これと同じように、今まさに茂原市においても、"善意の連鎖"が起こつております。これが大きな揺らぎとなり、その輪が広がっていくことを期待します。この善意とは、もちろん寄付行為だけを指すのではなく、茂原市を住みよいところにしたいという気持ちの問題であります。

「北京の蝶々」という話があります。北京でおこつた一羽の蝶々の小さな羽ばたきが連鎖して共鳴し、やがてはニューヨーク